

令和7年度 かほく市立宇ノ気小学校 学校評価計画書 No.1

| 重点目標 | 自己評価 | | | | | | 改善策 | 前期 Aの割合 | 後期 Aの割合 | | |
|--------------------------|---|--------------------|-------|--|----------|--|------|------------|---|-----------|-----------|
| | 具体的取組 | 主担当 | 評価の観点 | 到達度判断基準 | | 判定基準 | | | | 前期 到達度 | 後期 達成度 |
| 1 新しい時代に必要となる資質・能力の育成 | ① 教科等の見方・考え方をふまえた共通の軸、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させた授業を工夫する。 | 研究主任 | 努力 | 児童が学び方を選択して課題を解決することができるように、学期ごとに計画した手立てをもとに授業づくりの工夫に努めている。 | 教員アンケート | 4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満 | 100 | 100 | 学校訪問や公開授業等で、学年会や教科会を中心に教材研究ができた。引き続き、情報を共有しながら授業づくりの工夫に努める。 | 54.3 | 55.9 |
| | | | 成果 | 学期ごとに設定した「目指す児童の姿」に達成できたか。 | 教員アンケート | 4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満 | 97.1 | 97.1 | 引き続き、毎月の学年会で学期ごとに設定した「目指す児童の姿」の達成度について話し合い、児童が見通しや目的意識をもって授業に取り組んでいるか確認する。 | 51.4 | 47.1 |
| | | | 満足 | 友達と相談したり、自分でやり方を決めたりする授業を楽しんでいる。 | 児童アンケート | 4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満 | 85.2 | 87.9 | 引き続き、友達と交流した後に、自分の変容(学習の深まり)が意識できるように、授業の終わりの学習の振り返りと学び方の振り返りを大切にしていく。 | 46.4 | 45.6 |
| | | | 満足 | 【新】お子さんは授業が楽しいと言っている。 | 保護者アンケート | 4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満 | 77.2 | 77.9 | 児童のやりたいことと教師がしてほしいことがずれないように、単元のゴールを共有する。また、自分の変容や努力の過程を「楽しい」と感じられるように声掛けをしていく。 | 25.4 | 27.0 |
| | ② アウトプットさせることで、「伝える力」を育成する。 | 図書担当 | 努力 | 子供の思いを表現する場や学んだことを伝える場を設定している。 | 教員アンケート | 4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満 | 100 | 100 | 引き続き、学習形態や発表方法を児童に選択させながら、友達に伝える場を設けていく。 | 68.6 | 70.6 |
| | | | 成果 | 【新】授業で学んだことを、自分の言葉で表現している。 | 児童アンケート | 4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満 | 76.7 | 77.0 | 学級に、安全安心な風土を作り、朝の会や帰りの会等で、簡単なテーマと話型を与え、人前で自由に話すことに慣れさせる。 | 36.9 | 32.9 |
| | | | 努力 | 【新】並行読書や調べ学習など、授業で図書館や学校司書を活用し、読書の質の向上に努めている。 | 教員アンケート | 4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満 | 93.3 | 93.4 | 国語の学習を中心に、並行読書、調べ学習などに図書館を活用している。引き続き学校司書と連携し、読書活動の推進に努めていく。 | 43.3 | 56.7 |
| | | | 満足 | 【新】お子さんは、家で読書をしている。 | 保護者アンケート | 4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満 | 40.4 | 42.6 | 週末読書や「読書ノート」の活用を呼びかけた結果、数値が微増した。来年度は年度初めから呼びかけをし、読書を習慣化していく。 | 15.3 | 15.8 |
| | ③ 学習を支える発達指示的生徒指導を推進する。(生徒指導の4つの視点、適切な見取りと指導・支援) | 主幹 研究主任 生徒指導 | 努力 | 児童が思いを伝え合えるよう、生徒指導の視点(自己存在感・共感的人間関係・自己決定・安全安心な風土)の実践を心掛けている。 | 教員アンケート | 4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満 | 100 | 100 | 引き続き、一人一人の意見や行動を認め、よさが発揮できる場や、友達と協力しながら解決していく場を効果的に取り入れていく。 | 69.4 | 63.9 |
| | | | 満足 | 学校では、勉強を丁寧に教えている。 | 保護者アンケート | 4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満 | 87.5 | 90.8 | 学習内容や到達目標を事前に示したり、学習のねらいと成果を児童に分かりやすく伝えたりするなど、丁寧な指導が伝わる授業づくりを進める。 | 38.8 | 46.6 |
| | ④ 授業や家庭学習でICTを効果的に活用する。 | GIGA構想推進リーダー | 努力 | 授業において、協働的な学習を進めたり児童の考えや立場を明確にし、学びを深める手段として、ICT・一人一台端末の活用を努めている。 | 教員アンケート | 4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満 | 88.6 | 87.9 | 端末をうまく使っても端末を使う必要がある場面だけでなく、効果的に活用できない。デジタルが良いかアナログが良いか、単元や学習内容を基に考えていく必要がある。 | 48.6 | 51.5 |
| | 学校関係者 評価 | 意見なし | | | | | | | | | |

| 重点目標 | 自己評価 | | | | | | | 改善策 | 前期 Aの割合 | 後期 Aの割合 | | | |
|-------------|----------------------------------|----------------------------------|------------|--|---|-------------|--|--|--|--|---|-----------|------|
| | 具体的取組 | 担当 | 評価の観点 | | 到達度判断基準 | | 判定基準 | | | | 前期 到達度 | 後期 到達度 | |
| | ① | 相手のよさを見つけ、協力し合う集団づくりに努める | 学年主任 | 満足 | 自分にはよいところがあると思っている。 | 児童アンケート | | 4+3の割合 A90% B80%以上 90%未満 C70%以上 80%未満 | 95.0 | 96.0 | グループエンカウンターを効果的に活用し、自己肯定感の向上を図っていく。ありがとうカード（りんごの木、ナイスカード等）の活用や2月の生活目標「感謝の気持ちをたうさん伝えよう」と関連付けて取り組んでいく。さらに、各学年の取組を交流し、よりよい集団づくりの方法を広めていく。 | 94.7 | 96.4 |
| | | | | | | 4よくあてはまる | 2あまりあてはまらない | 100 | 100 | | | | |
| | | | | 3だいたいあてはまる | 1あてはまらない | A | A | | | | | | |
| | | | | 努力 | 【新】相手のよさを見つけ、協力し合う集団づくりに努めている。 | | | 教員アンケート | | 4+3の割合 A90% B80%以上 90%未満 C70%以上 80%未満 D70%未満 | | | |
| | ② | 自信と意欲を育てるための「活躍・挑戦できる場」の設定 | 生徒指導主事 | 努力 | 生徒指導の視点(自己存在感・共感の人間関係・自己決定・安全安心な風土)を意識し、子供が挑戦できる場を意図的に設定している。 | 教員アンケート | | 4+3の割合 A90% B80%以上 90%未満 C70%以上 80%未満 | 100 | 97.1 | 今後、生徒指導の視点の共通理解を図りながら、学級や学年での実践を継続し、すべての児童が自信をもって挑戦できるように支援していく。 今年度は、「あいさつの向上」を重点目標として取り組んできた。数値の達成だけを目的とするのではなく、児童や教職員が「あいさつがよかった」と実感できる取組を大切にできた。生活目標に「あいさつ」を位置づけるとともに、代表委員会の児童が中心となり、お昼の放送などを通して学校全体であいさつの習慣づくりを進めてきた。また、教職員が率先してあいさつを行う姿を示すことを意識し、児童の意識向上につなげてきた。 学校評価アンケートでは、前期97.9%から後期93.9%と数値はやや低下したものの、後期も高い評価を維持することができた。特に後期は、代表委員会によるあいさつビンゴや継続的な呼びかけを通して、数値だけでなく、日常生活の中で感じられるあいさつの向上にも力を入れて取り組んだので継続していく。 | 66.7 | 60.0 |
| | | | | | | 4よくあてはまる | 2あまりあてはまらない | 97.0 | 93.9 | | | | |
| | | | | 3だいたいあてはまる | 1あてはまらない | A | A | | | | | | |
| | | | | 努力 | いつでも自分からあいさつをしている。 | | | 児童アンケート | | 4+3の割合 A90% B80%以上 90%未満 C70%以上 80%未満 | | | |
| | ③ | 確かな児童理解に努め、個に応じた指導・支援を迅速かつ組織的に行う | 生徒指導主事 | 努力 | 子供はあいさつをしている。 | 保護者アンケート | | 4+3の割合 A90% B80%以上 90%未満 C70%以上 80%未満 D70%未満 | 86.3 | 86.1 | 児童の数値が大幅に向上した背景には、教職員一人ひとりが児童との関わりを大切に、学級経営の充実や、子供の思いに寄り添った日常的な関わりを積み重ねてきたことが考えられる。特に、児童が「自分の居場所がある」と感じられるような雰囲気づくりや、安心して過ごせる学級づくりが、学校生活の楽しさの実感につながった。今後も、児童一人ひとりの思いや小さな変化を丁寧に受け止めるとともに、家庭との連携を大切にしながら、児童がより一層「学校へ行くのが楽しい」と感じられる学校づくりを進めていく。 | 38.4 | 37.9 |
| | | | | | | 4よくあてはまる | 2あまりあてはまらない | 100 | 100 | | | | |
| | | | | 3だいたいあてはまる | 1あてはまらない | A | A | | | | | | |
| | | | | 努力 | 自分からあいさつをしている。 | | | 教員アンケート | | 4+3の割合 A90% B80%以上 90%未満 C70%以上 80%未満 D70%未満 | | | |
| ③ | 確かな児童理解に努め、個に応じた指導・支援を迅速かつ組織的に行う | 学年主任 | 満足 | 学校へ行くのが楽しい。 | 児童アンケート | | 4+3の割合 A90% B80%以上 90%未満 C70%以上 80%未満 | 90.4 | 97.9 | 児童の数値が大幅に向上した背景には、教職員一人ひとりが児童との関わりを大切に、学級経営の充実や、子供の思いに寄り添った日常的な関わりを積み重ねてきたことが考えられる。特に、児童が「自分の居場所がある」と感じられるような雰囲気づくりや、安心して過ごせる学級づくりが、学校生活の楽しさの実感につながった。今後も、児童一人ひとりの思いや小さな変化を丁寧に受け止めるとともに、家庭との連携を大切にしながら、児童がより一層「学校へ行くのが楽しい」と感じられる学校づくりを進めていく。 | 54.3 | 57.7 | |
| | | | | | 4よくあてはまる | 2あまりあてはまらない | 87.1 | 87.1 | | | | | |
| | | | 3だいたいあてはまる | 1あてはまらない | B | B | | | | | | | |
| | | | 努力 | 子供は学校へ行くのが楽しいと感じている。 | | | 保護者アンケート | | 4+3の割合 A90% B80%以上 90%未満 C70%以上 80%未満 | | | | A |
| ③ | 確かな児童理解に努め、個に応じた指導・支援を迅速かつ組織的に行う | 学年主任 | 満足 | いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思っている。 | 児童アンケート | | 4+3の割合 A90% B80%以上 90%未満 C70%以上 80%未満 | 96.6 | 95.8 | いじめに関する項目については、前期・後期ともに95%を超える高い評価を維持している。安心・安全な学級づくり、いじめ・不登校の未然防止に向けて、生徒指導主事や若プロ担当、いじめ対応アドバイザー、スクールカウンセラーによる生徒指導研修会等を充実させてきた。 今後も、教職員一人ひとりが高いアンテナをもち、複数の視点(複数のアンテナ)で児童の様子を丁寧に見取り、いじめを決して見逃さない体制づくりを継続するとともに、いじめ重大事案ゼロを目指した取組を進めていく。 | 84.8 | 83.7 | |
| | | | | | 4よくあてはまる | 2あまりあてはまらない | 100 | 100 | | | | | |
| | | | 3だいたいあてはまる | 1あてはまらない | A | A | | | | | | | |
| | | | 努力 | 教師は、観察や意図的な対話を通して、いじめ・不登校の未然防止に努め、かつ組織的に取り組んでいる。 | | | 教員アンケート | | 4+3の割合 A90% B80%以上 90%未満 C70%以上 80%未満 | | | | A |
| ③ | 確かな児童理解に努め、個に応じた指導・支援を迅速かつ組織的に行う | 学年主任 | 満足 | いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思っている。 | 児童アンケート | | 4+3の割合 A90% B80%以上 90%未満 C70%以上 80%未満 | 90.4 | 97.9 | 児童の数値が大幅に向上した背景には、教職員一人ひとりが児童との関わりを大切に、学級経営の充実や、子供の思いに寄り添った日常的な関わりを積み重ねてきたことが考えられる。特に、児童が「自分の居場所がある」と感じられるような雰囲気づくりや、安心して過ごせる学級づくりが、学校生活の楽しさの実感につながった。今後も、児童一人ひとりの思いや小さな変化を丁寧に受け止めるとともに、家庭との連携を大切にしながら、児童がより一層「学校へ行くのが楽しい」と感じられる学校づくりを進めていく。 | 54.3 | 57.7 | |
| | | | | | 4よくあてはまる | 2あまりあてはまらない | 87.1 | 87.1 | | | | | |
| | | | 3だいたいあてはまる | 1あてはまらない | B | B | | | | | | | |
| | | | 努力 | 子供は学校へ行くのが楽しいと感じている。 | | | 保護者アンケート | | 4+3の割合 A90% B80%以上 90%未満 C70%以上 80%未満 | | | | A |
| ③ | 確かな児童理解に努め、個に応じた指導・支援を迅速かつ組織的に行う | 学年主任 | 満足 | いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思っている。 | 児童アンケート | | 4+3の割合 A90% B80%以上 90%未満 C70%以上 80%未満 | 96.6 | 95.8 | いじめに関する項目については、前期・後期ともに95%を超える高い評価を維持している。安心・安全な学級づくり、いじめ・不登校の未然防止に向けて、生徒指導主事や若プロ担当、いじめ対応アドバイザー、スクールカウンセラーによる生徒指導研修会等を充実させてきた。 今後も、教職員一人ひとりが高いアンテナをもち、複数の視点(複数のアンテナ)で児童の様子を丁寧に見取り、いじめを決して見逃さない体制づくりを継続するとともに、いじめ重大事案ゼロを目指した取組を進めていく。 | 84.8 | 83.7 | |
| | | | | | 4よくあてはまる | 2あまりあてはまらない | 100 | 100 | | | | | |
| | | | 3だいたいあてはまる | 1あてはまらない | A | A | | | | | | | |
| | | | 努力 | 教師は、観察や意図的な対話を通して、いじめ・不登校の未然防止に努め、かつ組織的に取り組んでいる。 | | | 教員アンケート | | 4+3の割合 A90% B80%以上 90%未満 C70%以上 80%未満 | | | | A |
| 学校関係者 評価 | 意見なし | | | | | | | | | | | | |

令和7年度 かほく市立宇ノ気小学校 学校評価計画書 No.3

| 重点目標 | 自己評価 | | | | | | 改善策 | | 前期 Aの割合 | 後期 Aの割合 | | | | | |
|--------------|---|-------------------------|-------------------------|--|--|-------------------------|--|--|------------|--|---|------|------|------|------|
| | 具体的取組 | 主担当 | 評価の観点 | | 到達度判断基準 | | 判定基準 | 前期 到達度 | | | 後期 到達度 | | | | |
| 3 豊かな心の教育の充実 | ① | 道徳の時間を中心に、道徳教育の充実に努める | 道徳推進教師 | 努力 | 学年共通道徳を行い、「考え、議論する道徳」の実践に努めている。 | 教員アンケート | | 4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満 | 100 | 92.5 | 学年での教材研究、学年掲示板への「今月の道徳」の掲示を通して、学年共通道徳の実践を今後も進めていく。 | 39.3 | 48.1 | | |
| | | | | | 4よくあてはまる 3だいたいあてはまる | 2あまりあてはまらない 1あてはまらない | A | A | | | | | | | |
| | | | | 成果 | 道徳の授業を通して、よりよい生き方について考えることができた。 | 児童アンケート | | 4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満 | 89.3 | 90.4 | 引き続き、授業の終末には、「自己を見つめる」時間を設定し、児童が自分自身の問題として受け止めて振り返られるようにする。 | B | A | 54.0 | 53.4 |
| | | | | | 4よくあてはまる 3だいたいあてはまる | 2あまりあてはまらない 1あてはまらない | B | A | | | | | | | |
| | | | | 努力 | 【新】道徳の授業等を通して、将来の夢や目標をもつことができる授業や声掛けを行っている。 | 教員アンケート | | 4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満 | 100 | 92.8 | いろいろな学年の授業実践を交流し、児童がこれからの生き方を考えられるように、年間計画をもとに指導していく。 | A | A | 34.5 | 46.4 |
| | 4よくあてはまる 3だいたいあてはまる | 2あまりあてはまらない 1あてはまらない | A | | A | | | | | | | | | | |
| | 成果 | 将来の夢や目標をもっている。 | 児童アンケート | | 4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満 | 84.5 | 87.0 | 道徳の時間だけでなく教育活動全体を通して、夢や目標をもち協力して前向きに取り組む声掛けを今後も行っていく。 | B | B | 61.2 | 56.4 | | | |
| | | 4よくあてはまる 3だいたいあてはまる | 2あまりあてはまらない 1あてはまらない | B | B | | | | | | | | | | |
| | 成果 | 子供は、将来の夢や目標をもっている。 | 保護者アンケート | | 4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満 | 66.9 | 67.9 | 道徳の授業の様子をホームページや学年だよりで発信し、家庭での会話のきっかけを作っていく。 | D | D | 27.4 | 27.7 | | | |
| | | 4よくあてはまる 3だいたいあてはまる | 2あまりあてはまらない 1あてはまらない | D | D | | | | | | | | | | |
| ② | 地域との交流を積極的に行うことで、郷土を愛する信楽を養う（地域の人・もの・ことと関わる単元を設定し、取り込む） | 主幹 | 成果 | 児童は、自分の住んでいる地域のよさを感じている。 | 児童アンケート | | 4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満 | 92.8 | 94.4 | 引き続き地域コーディネーターと連携を深め、地域人材との関わりや体験活動を通して、児童が自分の住んでいる地域のよさを実感できる学習を計画的に進める。150周年記念式典を契機に、わがまちへの理解と誇りをさらに高めていく。 | A | A | 74.1 | 76.7 | |
| | | | | 4よくあてはまる 3だいたいあてはまる | 2あまりあてはまらない 1あてはまらない | A | A | | | | | | | | |
| 成果 | 郷土の自然・人・ものにつれて学ぶ教育活動を積極的に取り入れている。（学期に1回以上） | 教員アンケート | | 4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満 | 93.1 | 96.5 | 地域コーディネーターと定期的に情報共有を行い、郷土の自然・人・ものを生かした学習活動を計画的に実施する。学期1回以上の実践を確実に位置付けるため、教育課程の見直しや単元の追加・修正を随時行う。 | A | A | 41.4 | 44.8 | | | | |
| | 4よくあてはまる 3だいたいあてはまる | 2あまりあてはまらない 1あてはまらない | A | A | | | | | | | | | | | |
| 学校関係者評価 | 意見なし | | | | | | | | | | | | | | |

令和7年度 かほく市立宇ノ気小学校 学校評価計画書 No.4

| 重点目標 | 自己評価 | | | | | | | 改善策 | 前期 Aの割合 | 後期 Aの割合 | | |
|--------------------|---|--------------------------------|---|--|--|--|--|---|---|--|-----------|-----------|
| | 具体的取組 | 主担当 | 評価の観点 | | 到達度判断基準 | | 判定基準 | | | | 前期 到達度 | 後期 到達度 |
| 4 体力向上と健康・安全教育的の充実 | ① 体力・運動能力の向上に努める | 体育担当 | 努力 | 【新】体を動かす場の設定を十分に 行っている。(45分の授業の8割以上) | 教員アンケート | | 4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満 | 92.6 | 84.6 | 引き続き、授業における運動量の確保を、体育たよりや1校1プランの評価などで、全職員に周知し、継続して、体を動かす場の設定を十分にやっていく。 | 51.9 | 50.0 |
| | | | | 4よくあてはまる 3だいたいあてはまる | 2あまりあてはまらない 1あてはまらない | A | B | | | | | |
| | | | 努力 | スポチャレいしかわ、持久走、なわとびに取り組み、体力向上に努めている。 | 教員アンケート | | 4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満 | 79.2 | 95.9 | 計画通りに持久走、なわとびに取り組みことができた。体育委員会と連携して、スポチャレ実施のり組はできたが、記録の見える化をして、実践意欲を高める。 | 33.3 | 66.7 |
| | | | | 4よくあてはまる 3だいたいあてはまる | 2あまりあてはまらない 1あてはまらない | C | A | | | | | |
| | 努力 | 【新】休み時間や体育の時間に進んで 体を動かしている。 | 児童アンケート | | 4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満 | 89.3 | 89.9 | 体育館工事も終わり、以前と使えるようになる、体を動かすことも増えてくると思われる。運動が楽しいと思えるような活動を周知して、実践していく。 | 61.4 | 59 | | |
| | | 4よくあてはまる 3だいたいあてはまる | 2あまりあてはまらない 1あてはまらない | B | B | | | | | | | |
| | 満足 | 【新】体育や行事等で体を動かすことを 楽しんでいる。 | 保護者アンケート | | 4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満 | 93.3 | 91.8 | 運動量を確保しながらも、運動が楽しいと思えるような活動を取り入れた授業づくりをすすめていく。 | 67.9 | 66.1 | | |
| | | 4よくあてはまる 3だいたいあてはまる | 2あまりあてはまらない 1あてはまらない | A | A | | | | | | | |
| | ② 食育・健康・安全教育的に継続的に取り組む | 養護教諭 栄養教諭 保健主事 | 成果 | 年間指導計画に基づいて、保健指導や 食育教育を行っている。 | 教員アンケート | | 4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満 | 93.1 | 96.9 | 毎月、お便りを発行し、担当が児童の実態に応じて指導できるようにする。また、校内放送や毎日の給食指導の中で、繰り返し指導を行っている。 | 41.4 | 53.1 |
| | | | | 4よくあてはまる 3だいたいあてはまる | 2あまりあてはまらない 1あてはまらない | A | A | | | | | |
| | | | 成果 | 朝食を毎日食べている。 | 児童アンケート | | 4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満 | 94.3 | 93.8 | 保健指導の時間及び学級活動等で朝食の大切さについて、栄養教諭が指導を行っている。給食だよりや食育通信を通じて保護者へ啓発していく。 | 79.8 | 75.4 |
| | | | | 4よくあてはまる 3だいたいあてはまる | 2あまりあてはまらない 1あてはまらない | A | A | | | | | |
| | | | 努力 | 姿勢保持、視力低下防止の啓発に取り 組んでいる。 | 教員アンケート | | 4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満 | 97.2 | 97.1 | 視力や姿勢について意識できるように資料を提供し、強化週間や家庭と連携した取り組みについて保健安全全部で検討していく。 | 50.0 | 51.4 |
| | | | | 4よくあてはまる 3だいたいあてはまる | 2あまりあてはまらない 1あてはまらない | A | A | | | | | |
| 成果 | | | メール・ネット等における使用時間 【平日】 (但し、学習に係る視聴は除く) | 児童アンケート | | 4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満 | 69.7 | 67.3 | 理想的な使用時間の目安について担当が児童の実態に応じて指導できるようにする。また、児童委員会から全校へ呼びかける機会を設ける。 | 19.0 | 15.2 | |
| | | | 4 1時間未満 3 1時間～2時間未満 | 2 2時間～3時間未満 1 3時間以上 | D | D | | | | | | |
| 成果 | 子供のメール・ネット等における使用 時間【平日】 (但し、学習に係る視聴は除く) | 保護者アンケート | | 4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満 | 69.2 | 65.8 | 学校保健委員会などで、外部講師やPTAと連携をとりながら、身近な課題として話し合い、学び合う機会を設ける。 | 5.3 | 3.7 | | | |
| | 4 1時間未満 3 1時間～2時間未満 | 2 2時間～3時間未満 1 3時間以上 | D | D | | | | | | | | |
| 努力 | 火災、地震や水害などの自然災害、不 審者等、様々な災害から 成果自分の身 を守るために、子供たちの判断力や行 動力を高める指導に努めている。 | 教員アンケート | | 4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満 | 100 | 97.1 | 自然災害・人的災害ともに、今対応が求められるものについて、保健安全全部で協議して提案・実施した。今後は、急な訓練でも職員児童ともに対応ができるよう、計画的に備えていく。 | 66.7 | 65.7 | | | |
| | 4よくあてはまる 3だいたいあてはまる | 2あまりあてはまらない 1あてはまらない | A | A | | | | | | | | |
| 学校関係者 評価 | 意見なし | | | | | | | | | | | |

令和7年度 かほく市立宇ノ気小学校 学校評価計画書 No.5

| 重点目標 | | 自己評価 | | | | | | 改善策 | 前期 Aの割合 | 後期 Aの割合 | | | | | |
|------------------------------------|-------------------|-----------------------------------|---|---------|---|--|----------|--|---|---|---|-----------|------|--|--|
| | | 具体的取組 | 主担当 | 評価の観点 | 到達度判断基準 | | 判定基準 | | | | 前期 到達度 | 後期 到達度 | | | |
| 5 | 信頼される質の高い学校づくり | ① 自己研鑽に励み、チーム宇ノ気の一員として連携して職責を遂行する | 主幹 教諭 | 努力 | 校内外の研修会に積極的に参加し、必要努力に応じて対象となる教職員や全体への研修内容の還元を行っている。 | 教員アンケート | | 4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満 | 100 A | 100 A | 職員会議や終礼の時間を活用し、研修後すぐに学びを共有できる機会を設け、日々の実践に生かしていく。事前に計画化することで、互いに高め合う組織づくりを進める。 | 48.6 | 61.1 | | |
| | | ② 子供の思いに届く適切な指導を行う | 教頭 | 努力 | 学校に、安心して通うことができている。 | 児童アンケート | | 4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満 | 97.0 A | 97.8 A | | | | ・アンケート結果や児童の様子から気になる様子があるときは、すぐに話を聞くことをすぐに行う。児童に寄り添いながら良い方向を一緒に探していく際も学年、生徒指導と連携を密にし、チームで行う。 | |
| | | | | 努力 | 体罰や行き過ぎた不適切な言動を行うことなく、子供や保護者の心に寄り添った指導や対応を行っている。 | 教員アンケート | | 4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満 | 97.2 A | 97.3 A | | | | | ・教職員の不適切な指導については、児童、保護者からはもちろん教職員同士の他あらゆる方面に対してアンテナを高くし、丁寧に対応し、早期発見早期改善を行っていく。 |
| | | | | 満足 | 相談事があるとき、学校は相談にのってくれる。 | 保護者アンケート | | 4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満 | 84.8 B | 88.4 B | | | | | |
| ③ ホームページのこまめな更新等を通して学校の情報を積極的に発信する | 主幹 | 努力 | 本校における教育活動の内容や学力調査等の結果をHP・各種たよりを活用し、保護者や地域への情報発信に努めている。 | 教員アンケート | | 4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満 | 100 A | 100 A | 引き続き職員会後の学年会でホームページ更新の役割分担と計画を明確にし、定期的な情報発信を継続することで、保護者や地域に学校の取組を分かりやすく伝えていく。 | 58.6 | 65.5 | | | | |
| 6 | 人材育成と教職員の働き方改革の徹底 | ① 学校運営への参画意識を高める | 教頭 | 努力 | 一人一人が学級・学年・級外としての担当業務や分掌の役割を適切に果たし、特に若手においては、積極的に様々な仕事にチャレンジしようとしている。 | 教員アンケート | | 4+3の割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満 | 100 A | 100 A | ・学年会で、若手の活躍の場が広がるような仕事分担をしていく。そのために仕事の細分化をするなど役割を明確にしていく。 ・職員それぞれの長所や得意分野を積極的に生かせるように校務分掌を見直す。 | 55.6 | 61.1 | | |
| | | ② 教職員の時間外勤務時間の縮減に努める | | 成果 | 毎週水曜日には定時で退校できるように努め、会議や業務の効率化を目指し、時間外勤務時間の縮減を図る。 | 時間外勤務が月平均4.5時間を超える割合が A 0%以下 B 20%以下 C 30%以下 D 40%以下 | | 16.1 B | 14.8 B | ・来年度に向け行事、業務、会議の見直し、校務DXの推進を確実に行うことで、仕事の偏りを減らす。 ・保護者の教職員の働き方改革への理解をお知らせ等と周知していく。 ・退校時間の管理、退校時刻遵守の意識改善を徹底する。 | | | | — | — |
| 学校関係者評価 | | 働き方改革については、地域の力を借りて実行していけたらよい。 | | | | | | | | | | | | | |